



8月の園だより

太陽の子保育園 2024年8月号

毎日暑い日が続きますね。そんな暑さの中でも、子どもたちは毎日プールあそびや夏野菜の収穫など、夏ならではの体験を思いっきり楽しんでます。

先日の夏まつりでは、多くの方にお越しいただきありがとうございました。雨が心配でしたが、おみこしや太鼓なども行うことが出来、おかげさまで楽しく夏まつりを終えることが出来ました。

夏の身体は、おとなも子どもも、かなりの体力を消耗します。だからこそ、いつも以上に「食事・睡眠・休養」が大切になりますね。早寝・健康に留意して、楽しい夏にしてください。

子どもを熱中症から守るには

子どもの熱中症の中でも、乳幼児は自宅と屋外での発生が多く、児童・生徒は学校での運動中に多く発生しています。子ども（特に乳幼児）は自身で予防策が取れません。大人がしっかり見守り、涼しく過ごす配慮をしてください。

お子さまの異変に敏感になる

顔が赤くひどく汗をかいている場合は、涼しい場所で十分休ませたり水分を飲ませるなどの対応をし、様子を見ましょう。

涼しい服装を選ぶ

涼しい服を着せ、暑さに応じて脱ぎ着するよう教えましょう。

こまめに水分を摂らせる

屋外でもこまめに水分を摂れるよう、飲み物を持ち歩かせましょう。

外出時の照り返しに注意する

子どもは大人より身長が低いため、地面から照り返しの影響を強く受けることを常に意識しておきましょう。また、ベビーカーも地面からの位置が近く、内部の温度が外気温以上に高くなるため、保冷剤や冷感グッズを利用するなどの対策が有効です。

暑さに強い身体をつくる

いつもエアコンの効いた部屋にいて汗をかかずにいると、暑さに弱くなってしまいます。本格的に暑くなる前から、適度な運動で上手に汗をかき習慣を身につけ、暑さに強い体をつくりましょう。

絶対に車内に子どもを置き去りにしない！

車内の温度は短時間で一気に上昇します。また、冷房をつけていても何かの拍子に切れる可能性もあるので、季節にかかわらず、わずかな間でも絶対に子どもだけを残して車を離れないでください！

環境省「心がけ次第で防げる！熱中症対策BOOK」より



8月の予定

- 7(水) 職員園内研修
- 7(水) 音楽指導(幼児)
- 15(木) 避難訓練
- 19~23 身体測定
- 23(金) お誕生日会
- 26(月) 体育指導(幼児)
- 29(木) プール納め

◎プール納めにつきましては気温の状態などにより変更となる場合があります。その際には改めてご連絡させていただきます。



9月の予定

- 2(月) 防災集会・引渡訓練(全園児)
- 4(水) 調理保育(くま)
- 6(金) 太鼓指導(らいおん)
- 9~13 身体測定
- 11(水) 音楽指導(幼児)
- 13(金) 敬老の日会(らいおん)
- 24(火) 職員園内研修
- 24(火) 体育指導(幼児)
- 27(金) お誕生日会

自分を好きになれる子どもに育てる

「完 子どもへのまなざし」(福音館) 佐々木 正美 著



私は子どもの精神科の医師として、何千人もの子どもたち、あるいは多くのご家族にお会いしてまいりました。そういう臨床の仕事の経験について、ある雑誌から取材を受けたとき、その記者に「佐々木さんは、子どもたちがどんなふうになってほしいと願っていらっしゃるのか」と聞かれたことがあります。それも、ひとことで教えてくださいというのです。

かつて、英国の名宰相といわれたチャーチルが、ある難問を新聞記者から投げつけられて、五分くらいで説明してくださいといわれたそうです。そうしたら、チャーチルは「五分で答えるなんていわれたら、最低三日もらわなくちゃ答えられない。一時間説明していいというなら、いますぐ答える」といった話を思い出しましたが、たしかに、こういう質問を、ひとことで答えるのは、非常にむずかしいことですね。みなさんは、どうお答えになるでしょうか。

そのとき、私はちょっと考えて「自分で自分のことを好きになれる子どもに育てたいと思う」と答えたことを覚えています。このことは、いろいろな勉強会でも折にふれてお話ししていたことですから、すぐに答えられたのかもしれませんが。それからすこして、保育士さんの勉強会に講演を頼まれて行ったとき、ある園長さんがこんなことをお話ししてくださいました。

その園の四歳の男の子が「先生、ぼく、悲しいんだ」といったそうです。園長さんが「何がそんなに悲しいの」と聞きましたら、「ぼくはママのこと大好きなだけけど、ママがぼくのことを好きになってくれないんだ」というのです。とっさに、園長さんは「そんなことないでしょう、ママはあなたのこと好きに決まっているよ、お母さんって、みんなそういうものだよ」と、その子をなぐさめたそうですが、その子は「だけど、ママはぼくより、何ちゃんのことが好きだというんだ」といったそうです。

そのお母さんは、その男の子より何ちゃんという弟のほうが、かわいいといったのかもしれませんが、その子がどれだけ傷つくかということがわからない人なのですね。その子が「ぼくはママにきらわれているんだ」という、自己否定的な感情をもってしまうことを平気でいうお母さんに、私は悲しくなりました。

子どもというのは、人から好きになってもらって、はじめて自分のことを好きになれるのです。お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、保育園や幼稚園の先生、学校の先生、友達など、いろいろな人が自分のことを好きになってくれた、そういうことを自分のなかにたくさん取りこんで、発達、成長していくのです。自分のことを好きになってくれる人が多ければ多いほど、その子は自分で自分のことを好きになっていけるし、勉強やスポーツや稽古事などがよくできようができませんが、いきいきと希望をもってよい子に育っていくものです。

ですから、私は「自分を好きになれる子」ということは、子どもを育てるときのキーワードだと思っています。人間には、いろいろな程度に自分のきれいな部分も好きな部分もあり、それらをさまざまに組み合わせ、自分に対する意識をもってのりわけです。きれいなところは一つもありません、100%自分のことを好きですという人はいないと思います。

子どもたちは、算数がもうすこしできたらいいとか、かけこがもうすこし速く走れるといいとか、ピアノが上手になるといいとか、さまざまな満足できない部分をもって日々すごしています。ところが「自分を好きになれる子」というのは、あれこれ不十分なところはあるけれど、だいたい、自分は自分のこういうところが好きだ、自分の好きなところを意識できるし、実感できるから元気に生きていくことができるのです。

もって生まれた個性、能力、資質、素質、あるいはそういった種類のものは、基本的にはなかなか変えることはできませんから、自分が好きという感情を育ててあげることがとても大切なことなのです。何かがよくできる子にあげると、子どもは自分のことを好きになれるかという、そうではありません。どんなにいろいろなことがよくできるようになっても、その子を心から好きになってあげない人がいないと、子どもは自分のことを好きになれません。ここがとても重要なところなのです。

そして、自分が好きといえる子どもには、「そのままいいから安心していなさい、あんたのこと大好きなんだから」というお母さんやお父さんをはじめ、自分のことを好きになってくれる人がたくさんいます。その人たちがいるから、子どもたちはもっと好きになってもらおうと、もうすこしこういうところを、もうすこしああいうところをというふうに、不十分なところをよくしていこうと努力することができるのです。

ところが近年、日本人は、自分の気に入った面をもって人でない、なかなか好きになれないという人が多くなりました。こういう感情をどんどん強くもってきて、私たちおとなが子どもに向ける目も、そうやってきてしまいました。

とりわけ、親は自分を喜ばせてくれる子どもは、当然好きになります。自分を心配させたり、困らせたり、悲しませたりする子どもを、なかなか好きになれないようになりました。もちろん、自分の子どもですから、親の願いとはちがった個性や特性をもった子どもであっても、その子をありのままに好きになれる親はいます。けれど現代の親は、自分が望んでいるとおりに子どもが育ってくれないと、その子を好きになれないという人がだんだん多くなってきました。

自分のことを好きな子どもは幸福ですから、いきいきと元気に活動でき、自分で自分のことを好きになれるのです。私たちは子どもたちを「自分を好きになれる子ども」に育ててあげたいと思いますが、それは一人ではできません。多くの人から好きになってもらわなければならないのです。

一番大切なのは、お母さんから、お父さんから好きになってもらうことです。保育園の子どもであれば、保育士さんから好きになってもらう。そして友達からも好きになってもらう、学校へ行けば、先生や友達から好きになってもらう。こういうふうになると、子どもは自分のことを好きになってもらえる程度に応じて、自分を好きになっていくのです。ここがいま、非常に弱くなっているわけです。